

議事録

会議名	開催日
第4回高知市子ども・子育て支援会議	令和8年3月26日(木) 18:30~20:00
出席者	
(委員) 山下会長、井上副会長、大黒委員、菅野委員、武樋委員、中村委員、中屋委員、正木委員、町田委員、森本委員、安岡委員、山崎委員、山波委員 13名	
(事務局) 子ども未来部 大野部長、和田理事、山中副部長、竹内教育次長、植田教育次長、子ども政策課 高橋課長、母子保健課 小松課長補佐、子ども家庭支援センター 角原所長、保育幼稚園課 宮地課長、地域共生社会推進課 鍋島課長、産業政策課 有光課長、教育政策課 野町副参事、学校教育課 田邊課長、青少年・事務管理課 北川課長、教育研究所 越智所長 他	
欠席者	
(委員) 永原委員、船井委員、森岡委員	

1 開会

2 議事1 高知市子ども計画(仮称)の素案について

(1) 高知市子ども計画(仮称)素案と基本方針、施策体系について

子ども政策課から資料1、資料2(p1~3)をもとに説明。

(2) 目標① 重点取組「子ども・若者が安心して過ごせる居場所づくり」について

子ども政策課から資料2(p4~7)をもとに説明。

(3) 目標② 重点取組「キャリア教育の推進」について

学校教育課、産業政策課から資料2(p8~13)をもとに説明。

(4) 目標③ 重点取組「妊娠前から切れ目のない支援」について

母子保健課から資料2(p14~17)をもとに説明。

(5) 目標④ 重点取組「児童虐待の発生予防」について

子ども家庭支援センターから資料2(p18~20)をもとに説明。

(6) 目標⑤ 重点取組「地域や社会の意識醸成」「子どもの権利についての啓発・普及」について

子ども政策課から資料2(p21~23)をもとに説明。

(7) 目標⑥ 重点取組「男女ともに仕事と育児が両立しやすい環境づくり」について

産業政策課から資料2(p24~26)をもとに説明。

【質疑応答】

<目標① 重点取組について>

(菅野委員)

居場所づくりに関する取り組み(資料2の6ページ)として、居場所同士の連携・協働を後押しするコーディネート機能とあるが、居場所に求めることは人によって異なるため、連携や協働により良い影響を与えるとは一概には言えないので慎重にした方がいいと思う。また、安心できる居場所づくりの検討として、施設等の場所が分かるようなマップなどを作り、子どもたちがアクセスしやすい環境を作ることが必要だと思う。

(山波委員)

主な事業（資料2の7ページ）に関して、こども・若者の視点に立った居場所づくりの検討として、オンライン空間メタバースの話があった。教育関係、福祉関係、医療関係の方との会でもメタバースの話が出た。非常に注目されているコンテンツであり、県外の自治体でも、いろいろな取り組みがされており、高知県でも心の教育センターが使っている。メタバースを広めて、居場所として非常に有効活用できるようだが、なかなか広まらない原因の一つが、ログインの複雑さがあるようである。できるだけ簡単にログインができるような状態にすることでより広まっていくと思う。特に、不登校の子は対人不安を抱えている子が多い。顔出しが不要で本名もいらないということであれば、精神的なハードルが低く、安全な居場所として認知しているこどもが、県外の事例では多いようである。

ただし、不登校のこどもにとってメタバースは、学校の代わりというわけではなく、あくまでも学校までの中間地点である。決して学校の代わりではないというところが、一つのポイントになると思う。

(山下会長)

居場所は学校だけという視点ではなくて、いろいろな居場所というのを検討していく必要があると改めて思った。

<目標② 重点取組について>

(菅野委員)

市内小中高とのキャリア教育における連携（資料2の11ページ）で、講師は高知大学学び創造センター谷口教授となっているが、特任助教と思うので早急に訂正をお願いしたい。

(産業政策課)

記載ミスであり、特任助教である。

(菅野委員)

キャリア教育の前後、前が難しければ後だけでも構わないが、キャリア教育に関して先生や生徒にアンケートを取り、キャリア教育を受ける前後でどのような変化が起きたかの調査を取ることでより良いキャリア教育に繋がると思う。

(山下会長)

キャリア教育実施後の効果を問うアンケート等の実施について、各学校ではやっていると思うが、次の施策に活かすために、市として一体的に実施することについて検討をよろしく願います。

(安岡委員)

市内私立中高とのキャリア教育の連携（資料2の11ページ）として、内容が「人口減少」や「地域課題」などのマイナス面に関することが多く感じた。大学でも課題解決に関する話は、机上の空論になったり、実現性が低い答えになったりすることがある。例えば、地域の特産品をPRするにはどのような方法があるかといった、プラス面の話を入れると良いと思う。私立の中高生はキャリア教育の機会があまりなかったため、私立中高でもキャリア教育が進んでいけばいいと思う。

(山下会長)

公立だけではなく、私立の中高も含めた形で、全体的な推進ということをお願いする。

(菅野委員)

キャリア教育は、キャリア（仕事）のことを考える以外に、課題解決力、課題発見力を

養うことが可能であると考え。具体的には、キャリアを考える上で、まず自分を見つめ、そのキャリアを歩んだらどうなるかと自分自身の人生を考える、見つめ直すきっかけを与えてくれる。キャリア教育は推し進めてほしいと思う。学校現場にはかなり負担が大きいので、教育委員会だけが主体的に行うのではなく、他部署と連携・協力して進めることで、教職員の負担を軽減して進めてほしいと思う。

<目標③ 重点取組について>

(井上委員)

健康維持、プレコンセプションケア（資料2の15ページ）は、非常に重要であり、プレコンセプションケアを進める中で、各世代で段階的な啓発が必要だと思う。女性の1日の摂取カロリーが低下していることや栄養の偏りなどが非常に大きな問題となっている。健康な体づくりは、その時に始めても数年後の体を作る話になる。健康であるためには、手前からのケアが必要だと思うので、早い時期から各段階で進めていくことで、後のプレコンセプションケア、体づくりに繋がっていくと考える。これから具体的に検討していくことになると思うので、ぜひよろしく願います。

(町田委員)

不妊治療で悩んでいる夫婦への経済的支援（資料2の15ページ）について、不妊治療をされている方に聞くと、休みが取りづらいということをよく聞く。急に休みを取らないといけないことがあり、休みやすさということ企業にも、ぜひ推進してほしいと思う。資料2の16ページの一般健康診査においても、目標利用回数14回ということであれば、土日はもちろん、平日働いている方でも受診しやすい環境を作してほしいと思う。

(山下会長)

気兼ねなく休みが取れるという社会が非常に大事だと思うので、企業との連携もぜひお願いしたい。

(山崎委員)

こどもの健康管理として、最近こどものアレルギーが増えてきている。給食のアレルギー対応の難しさや、アナフィラキシーの対応などがあり、保育士は研修等でいろいろと対応している。資料1の素案にアレルギーという言葉が出てこないため、ぜひその対応についても、盛り込んでいただきたい。

(山下会長)

施策を展開する際に、事業の中で展開してもらいたいというご意見なので、ぜひよろしく願います。

<目標④ 重点取組について>

(中村委員)

児童虐待は、最近では2パターンに分かれている。一つが、低年齢で出産することによって低学歴・低収入になり、それが負の連鎖になって虐待に繋がるケース。もう一つが、発達障害のこどもがすごく増えているが、発達障害はそのこどもたちだけでなく、親も発達面で凸凹があるような家庭が多い。育児手技が低い親が、育てにくいこどもを育てていく中で、結局力に頼ってしまっていて虐待になってしまうケースの2パターンあると思う。支援の方法は単一ではないと思うが、3つの「低」が重なるような家庭（低年齢・低学歴・低収入）に関しては、小さい時から性教育がすごく大事である。性教育の内容も新しくなっており、自分たちの体を守る、生きることを大事にする性教育という

のが始まっているので、そういったことを計画・取組の中に盛り込んでいただきたい。

また、不妊治療により、一度にたくさんの子どもを妊娠してしまって出産するケースが増えている。そうなると、低体重・未熟児が生まれやすくなる。未熟児は発達障害のリスクが高い。こういったパターン分けをしながら、新しい視点を踏み込んで支援の方法を具体的に組んでいかないと、児童虐待というのは今後もなくならないだろう。児童相談所にまでは行かないが、地域で困っているような水面下でのケースが非常に多く散見される。民間も含めて、妊娠のサポートから始めていろいろなことに取り組んでいるが、全体的に性教育や発達障害のリスクに関する視点を具体的に盛り込んでいただきたいと思う。

(山下会長)

とても大事な提言だと思う。点だけの取り組みではなくて、それが線で繋がって行って、一体的に支援ができるような体制づくりを、家庭や自治体も含めてお願いできればと思う。

(武樋委員)

児童虐待の問題と、妊娠期からの切れ目のない支援ということが非常に繋がっていると思う。特に思いがけない妊娠をした方については、育児のイメージができていない、経済的な支えがないというような状況が生まれやすい。国の児童虐待の死亡事例の検証結果を見ても、3割近くが思いがけない妊娠であり、それに伴う健診未受診が発生しているということが分かっている。思いがけない妊娠に対しての支援をしっかりとしていかななくてはならないと思う。誤解されやすいが、施設にいる子どもたちはほんの一部で、実は虐待があるかもしれない、不適切な養育があるかもしれない家庭の方が圧倒的に多い。そこをしっかりと支援していくことが、より豊かな社会を作っていくことにも繋がっていくと思うし、子どもたち一人一人の未来を作っていくという意味でとても重要なことだと思うので、しっかり取り組みに入れていただきたい。

(山下会長)

事象があつての対応ではなく、いかにそうならないように予防的な観点での取り組み、多機関での連携をしながら進めていくということをお願いしたい。

(正木委員)

児童虐待の発生予防に関して、これは家庭内のことを中心的に取り組むものか。

(子ども家庭支援センター)

子ども家庭支援センターでの取り組みとしては、事象が発生する前の保護者や子どもに関わる保育所等での職員研修といった家庭を中心とした取り組みの展開を考えている。ただし、法律も変わったように、児童福祉施設等での対応についても、今後、取り組みの展開を検討していく予定である。

(正木委員)

スポーツ少年団等で指導をされる方の暴言が非常に多く感じられる。学校内での活動ではないが、地域の方が無料で教えているような活動でも、非常にきつく虐待的な指導をされている方が多いので、その講習・指導等もお願いしたい。

(山下会長)

社会教育の中で地域の力を借りることはこれからあると思う。直接子どもと関わる人たちへの意識啓発というのは大事だという指摘であるので、ぜひそこも視点に入れて取り組みを進めてもらいたいと思う。

<目標⑤ 重点取組について>

(大黒委員)

仕事と育児が両立しやすい環境づくり（資料2の25ページ）に関して、例えば、高知市が保育園児や幼稚園児がいる家庭は仕事を16時まで、小学生のいる家庭は17時までにするといったような取り組みを率先してやることで、他の企業も真似しやすいモデルになると思う。

妊娠前からの切れ目のない支援や児童虐待に関して、高知市は共働きの家庭が多いため、こどもとの時間が取れないことにより虐待に繋がっていたり、不妊治療に関しても仕事の休みづらさが課題としてあると思う。そういったところも高知市が率先して取り組んでほしいと思う。

(山下会長)

アタッチメントはとても大事あり、保育だけではなく、企業との連携、働き方改革というところも含めて、全体的な支援ができるような体制づくりを高知市としても率先して取り組んでもらいたいということを、よろしく願います。

(中屋委員)

キャリア教育がすごく良い内容と思ったが、高知市は財政状況が大変厳しいと思うので心配している。

(学校教育課)

キャリア教育推進事業については、総額600万円の予算で事業実施する。各学校の児童生徒数等を考慮しながら割り振りをしている。厳しい予算の中ではあるが、精一杯予算をつけて進めていきたいと考えている。

(森本委員)

資料1の計画素案に関して、出生前後と小学生以降のことは取り組みとして出てくるが、その間の就学前幼児教育及び保育の部分が取り上げられていない。資料1の13ページで不登校児童数やいじめ件数が跳ね上がっている。日本の件数は世界でもトップクラスのようであるが、その背景は2015年に開始された子ども・子育て支援新制度に一因があるのではないかと考えている。新制度により従来8時間であった標準保育時間が11時間になり、そうなることで家庭にこどもといえる時間は1日13時間しか残らない。そのうち9時間は睡眠をとらないといけないので、こどもと親が愛着形成する時間はわずか4時間しかなく、これがアタッチメントとして十分でないことが、現状の要因の一つではないかと捉えている。全国の幼稚園の団体では、標準保育時間を削るよう動き始めた。この計画を進めることでそれなりに結果は出ると思うが、出生前後から小学生までの間のこの空白部分をしっかり対策しないと波及効果としては不安である。こどもと親のいる時間を少しでも増やせるよう、保育時間の見直しを検討いただきたい。

(こども政策課)

非常にたくさんの貴重なご意見をいただいた。可能な限り計画へ反映したいと思う。計画を作って終わりではないので、今後の取り組みにしっかりといかしていきたいと考えている。

(山下会長)

私たち委員も、これらの事業がどのような状況か、自分たちも参画しながら、お互い確かめながらやっていくということもできたら良いと思う。ぜひ機会があれば、参加してほしい。

3 報告1 こども・若者意見聴取 フィードバック報告書及び厳しい環境に置かれたこどもの意見聴取への取組状況（状況報告）

こども政策課から資料3、資料4をもとに説明。

【質疑応答】

（菅野委員）

フィードバック報告書（資料3）に関して、非常に分量が多く、こどもたちが読み進めるのを躊躇するように感じた。A0サイズ程度のポスターを作り、「こどもたちからの意見」と「意見に対する市からの回答」というような形式で十分に伝わると思う。ぜひご検討いただきたい。

（山下会長）

作成された資料が、こどもたちの手元にしっかりと届くということが大切だと思う。教育委員会との連携も必要になると思うので、ぜひ多くのこどもの手に取ってもらえるような環境を作ってもらいたい。

4 報告2 高知市こども計画（仮称）の表紙イラストの受賞作品及びスケジュールについて
事務局から参考資料をもとに説明。

5 閉会